

## 50 医療福祉相談室における室データベースのソーシャルワーク業務への活用の試み

医療相談開発部 森曜子 菅原美杉 中村あずさ 高世恵美子  
飯塚真理 福野功治 深津玲子

### 1. はじめに

医療福祉相談室では平成 15 年度に室データベース(以下 DB)の開発と整備を行った。それに伴い、平成 15 年 4 月より当センターに入院し、医療福祉相談室で支援を行った患者様の基礎データを入力、管理・統計している。今回の発表では平成 17 年度 DB の解析報告を行い、ソーシャルワーク業務への活用方法を模索していく。

### 2. 室データベースの概要

ファイルメーカー Pro5.5 で規定フォーマットに入力。担当 MSW のフォルダを作成し、室全体の DB を管理する。

#### 入力項目

- <基本属性> 氏名、登録 ID、生年月日、性別、入院日、入院時 BI、主治医、病棟・診療科、担当 MSW、入院目的、退院後の方向性
- <障害・疾患> 障害・疾患名、損傷部位(程度)、障害疾患特記(気管切開、感染症、嚥下障害、失語、その他)、高次脳機能障害の有無
- <社会歴> 家族状況、キープーツ、居住地、職業の有無・職務内容、就業形態
- <社会資源> 医療保険、労災、自賠責、生活保護、手帳の取得状況(種類、障害内容、等級)、介護保険、医療受給者証、住宅改修の有無
- <帰結> 退院日、退院時 BI・方向性・目的、転院先・施設区分(機関名称)、外来継続の有無

### 3. 解析報告

平成 17 年度に医療福祉相談室で支援を行った新規入院患者数は 538 名(病院全体の入院患者：919 名)、全体の 58.5%であるが、神経内科、整形外科、リハビリテーション科の 3 科に限定すると 84.3%となる。特に高次脳機能障害の患者様が入院している神経内科は 94.1%(320 名)の依頼があり、在宅復帰や復学、復職、転院、施設入所等数多くの支援を行っていた。高次脳機能障害の患者様の DB より性別、年代、BI、職業の有無、帰結を解析したところ、平均年齢は 50.8 歳(全障害:52 歳、脳障害全体:54.3 歳)と若く、身体に障害がなく高次脳機能障害のリハビリテーションが中心となる患者様の場合、家庭復帰 64.5%(復職 11.2%、復学・就学 6.5% 重複集計含む)、転院 30.1%、施設 4.2%、その他 1.2%であった。

### 4. 考察と今後の課題

1)考察：高次脳機能障害の患者様の中で BI が高い場合でも転院や施設入所している傾向がみられた。在宅復帰が難しい要因としては、障害者手帳や介護保険等の社会資源の運用の幅が狭いこと、高次脳機能障害の症状である発動性の低下や記憶障害、注意障害により、見守りが必要となることが多いため、在宅生活が困難であったと考えられる。

2)今後の課題：高次脳機能障害の患者様の麻痺の有無や発症日等の入力項目の増設や見直しを適時行う必要がある。更に DB の解析を継続し、傾向の把握に努めていくとともに、入院が長期化しているケースや対応が困難を極めたケース等の要因分析を行っていく。そして、支援を行う際の指標の一つとして、MSW としてのスキルアップにつなげていきたい。